

千葉市鎌田地区の畑地かんがいほ場整備に向けた取組

～北総中央用水を活用した新たな散水方法の普及に向けて～

1 活動のねらい

千葉市中野町鎌田地区(以下、鎌田地区)では秋冬にんじんを基幹とした露地野菜経営が行われています。しかし近年、生産者の高齢化や担い手の不足により、産地面積の維持が課題となっています。一方、鎌田地区では、平成27年から、北総中央用水を活用した畑地かんがいほ場の整備を進めてきました(県営畑地かんがい推進モデルほ場設置事業を活用)。

そこで、かんがい設備の導入による新たな水管理技術や作物栽培管理技術等の確立と普及を図ることで、生産者の作業負担軽減や、新たな担い手の確保に向けた支援を行いました。

2 課題の背景

鎌田地区畑地かんがい営農組合(7名)は、畑地面積約27haで秋冬にんじんを中心にさといもやらっきょう、落花生等の露地野菜経営を行っています。野菜栽培を行う上でかん水は欠かせませんが、地区内にはかん水設備が整っていないほ場が多いため、タンクをトラックに積み、水を汲む調整水槽とほ場を何度も往復してかん水をする必要があります。このかん水方法では大きな作業負担がかかるため、現地では各ほ場への給水栓の設置が進められています。そこで、従来のかん水方式では導入が難しかった新たなかん水器具の紹介を現地で行い、多様なかん水技術を提示しました。

3 普及活動の経過・結果

(1) 秋冬にんじんに対する新たなかん水器具の紹介

鎌田地区で主要な栽培品目となっている秋冬にんじんは、かん水チューブによるかん水が主に行われていますが、今回の実演会では新たなかん水方法



写真1 実演会の様子

として2社のスプリンクラーを用いたかん水展示ほを設置しました。地元生産者はスプリンクラーに対し、かん水粒径が大きいいため秋冬にんじんのかん水には不向きであるというイメージが強くあったことから、実際にスプリンクラーによるかん水展示ほを設置し、利便性や性能を明らかにすることでかん水器具の多面的な活用を提案しました。実演会を通じて、スプ

リンクラーは従来より行われているかん水チューブによるかん水よりも設置などに時間と労力がかかること、風の影響を受けやすくほ場全体にムラなくかん水することが困難であることが明らかとなり、秋冬にんじんでの導入には解決すべき課題が多いことがわかりました。一方、さといもなどの生育時に背丈が高い品目ではスプリンクラーによるかん水も有効であるとの意見が得られ、新たなかん水技術の普及につながりました。

(2) 畑地かんがい先進地域で活用されている小型移動式散水機の紹介

現在、鎌田地区ではかん水チューブによるかん水が多く行われていますが、かん水器具の設置と片付けに相応の時間がかかっています。そこで、設置と片付けに大幅な時間短縮が見込まれる小型移動式散水機の紹介を行いました。この小型移動式散水機は、千葉県での使用例はほとんどありませんが、畑地かんがいが積極的に導入されている鹿児島県曽於地域では活用が進んでいます。



写真2 小型移動式散水機の紹介

仕組みとしては、可動式台車の上にスプリンクラーを積載し水圧と巻きとりのワイヤーにより自動で前進する構造になっています。実演会に参加した生産者からは、「機械代が高いため導入までは難しいかもしれないが、設置や片付けにかかる時間が短縮され、品目によっては活用できる場面がある。」等の前向きな意見を聞くことができました。

4 今後の課題

北総中央用水を活用した畑地かんがいほ場の整備を今後も進めていく必要があります。来年度以降も引き続き、かんがい設備の導入による新たな水管理技術や作物栽培管理技術等の確立と普及を図ることで、生産者の作業負担軽減や、ほ場にかん水設備を整えることで新たな担い手の確保に向けた支援を今後も進めていきます。

5 担当者 千葉・習志野グループ 井上 絵里加

6 協力機関

千葉市、NPO 法人ちば農業支援ネットワーク、印旛農業事務所調査課